

それでも開催：贈賄疑惑・競技場設計変更・エンブレム盗作・女性蔑視失言・いじめ自慢・侮辱コントと直前まで問題多発の五輪は、コロナ・エビセンターか7月14日のゼミは、斎藤幸平『人新世の「資本論」』第3章「資本主義システムでの脱成長を撃つ」・第4章「人新世」のマルクス」を松村さんの報告で行いました。経済成長は必要なのか、開発経済では南北問題解決のために経済成長こそ鍵というのが、開発モデルは行き詰っている。社会的な土台と環境的な上限を表したドーナツ経済で不正を示すが、資本主義はグローバルな公正さを実現できないし、「脱成長資本主義」も存在できず、空想であり、日本社会の現状は脱成長ではなく長期停滞である。新世代の脱成長論はラディカルな資本主義批判による「コミュニズム」であり、ここにマルクスと脱成長とを統合する必然性が出てくる。第三の道が「コモン」であり、社会的に共有・管理される富であり、コミュニズムがコモンを再建し、地球を持続可能なコモンとして新しい道を模索する。若きマルクスが進歩史観としての生産力至上主義・ヨーロッパ中心主義を脱し、晩年は物質代謝論に行き着き、エコロジカルな理論的転換を行った。『資本論』以降、持続可能な「エコ社会主義」のビジョンへ、さらに単線的歴史観を決別し、自然科学研究と非西欧・前資本主義社会の共同体研究へと進んだ。「持続可能性」と「社会的平等」が新しいコミュニズムの基礎となり、「脱成長コミュニズム」と「協同的富」へと至る。報告者は大澤真幸・見田宗介・花崎昂平などを紹介。討論では、斎藤がここで取り上げるマルクス主義は欧州での議論だが、日本では宮本憲一に代表される環境問題への研究の歴史がある。出席は、小野さん、川口さん、松村さん、竹内さん、北川さん、山口さんと高田の7名でした。

*コロナ禍による「緊急事態措置」・「まん延防止等重点措置」により、4月14日・28日、5月12日・26日、6月9日・23日と3ヶ月間6回のゼミを中止し報告予定を順延し、7月14日から再開しました。
*会場「アイクルの部屋」は5月末に淀屋橋・道修町から堺筋本町・瓦町に移転しました。住所：大阪市中央区瓦町171 エスペランサ瓦町4階
*新しい「アイクルの部屋」では、「アイクル文庫」を新設し、本の貸出を行うとのこと、本の寄贈を募っています、ジャンルは問いません。

***** ゼミ日程 *****

7月28日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻36章 資本主義以前[の状態] 報告高橋さん
9月8日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第5章・第6章 報告斎藤さん(予定)
9月22日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻37章 緒論 報告者未定
その後 10/13, 10/27, 11/10, 11/24, 12/8, 12/22 (アイクルの部屋)

◇第三学科事務局/高田好章：ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso